



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### イラク：マーリキー首相のイラン訪問 (1月4-5日付現地各紙・イラン国営通信他)

1月4-5日付け現地各紙は、マーリキー首相のイラン訪問(2006年の首相就任以来4度目)について概要以下の通り報じている。

1. 3日、イラン訪問中のマーリキー首相は、アハマディネジャード大統領と短時間会談するとともに、ダーウーディ副大統領とモッタキー外相との会談を行った。イラク首相府は、頻繁なハイレベル会合は、両国関係が発展していることの証左であり、両国間の各省間における合同委員会の活性化を行いたいと声明を発表した。
2. アハマディネジャード大統領は、イラクの治安及び経済が改善してきていることに満足していると述べ、イラン・イラク間に現存するこれまで全ての問題が解決されることを期待していること、両国間の貿易取引が増えることを期待するとつけくわえた。また米軍との治安協定締結には賞賛の意を表明した。
3. 一方4日、マーリキー首相はハメネイ師との会談を行った。ハメネイ師は、米国の目的の一つは、イラクに長期間軍事を駐留させ、地域を支配することであり、2011年末までの駐留米軍撤退は信用できないと述べた。
4. マーリキー首相に同行のヤーシーン・マジード広報担当首相補佐官は、記者団に対して、今回のマーリキー首相のイラン訪問の目的は、イランとの経済分野に関する協議及び両国の協議機関である両国最高合同委員会の成果をフォローアップするためであった。